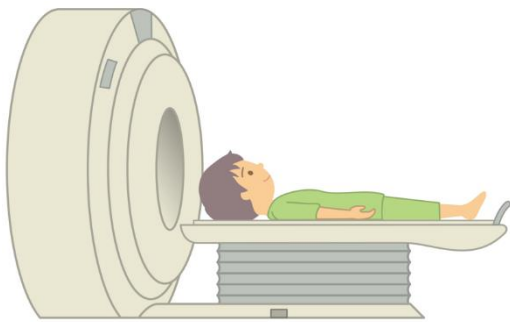


～ 低線量肺がんCT検診について ～

低線量肺がんCT検診は、肺がんの早期発見を目的とした検査です。従来の胸部X線検査による検診で発見される肺がんの大きさは、一般的に20～30mm以上とされていますが、低線量肺がんCT検査ではより小さく、より早期の肺がんを発見できると報告されています。

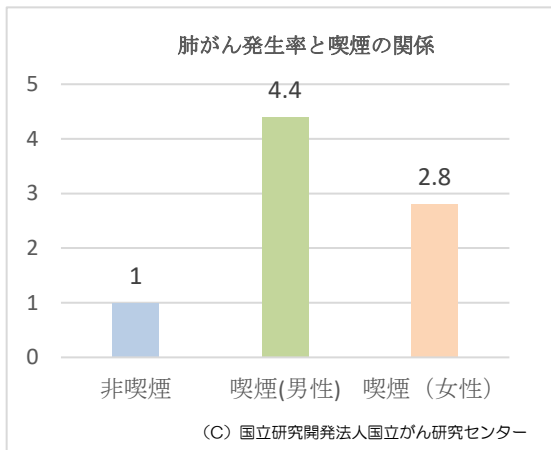
《低線量肺がんCT検診の特徴》



- 肺内部の気管支や血管を鮮明にみることができる。
- 胸部X線写真ではみづかりにくい薄い陰影の病巣や、心臓や横隔膜との重なりの変変を発見できる。
- 当施設では一般的な胸部CT検査に比べ約1/10の被ばく線量で検査を受けられる。

ただし、低線量CTでは画像の質は通常のCT検査に比べて劣りますが、陰影の存在の有無は十分に判断可能であることが証明されています。

《喫煙と肺がん》



肺がんは日本人男性のがんの部位別死亡率の第1位、日本人女性のがんの部位別死亡率の第2位です。その肺がんは、喫煙によって発症リスクが高まることがわかっており、喫煙者は非喫煙者に比べて、肺がん全体で男性では約4.4倍、女性では約2.8倍¹⁾リスクが高まるといわれています。

また、肺がんの死亡リスクも男性では約4.8倍、女性では約3.9倍となっています。

しかし禁煙すれば、そのまま喫煙し続けた場合よりも肺がんリスクは低下するとの報告があります。さらに、肺がんによる死亡リスクも男性で禁煙して4年未満で3.99倍、10～14年で1.87倍となり、15

年以上禁煙を継続することで、非喫煙者とほぼ同じくらいまで死亡リスクが低下する²⁾との報告があります。

1) (C) 国立研究開発法人国立がん研究センター

2) Wakai, K. et al. : Cancer Sci 98(4) : 584, 2007